

令和6年度 第1回秋葉区支え合いのしくみづくり会議 まとめ

【日時】令和6年6月26日（水）10:00～11:30

【会場】新津地域交流センター 2階 203・204研修室

【出席者】

郷構成員、南波構成員、豊島構成員、明田川構成員、野村構成員、佐々木構成員、阿部構成員、片桐構成員代理、羽生構成員、今井行政担当
稲垣事務局長、小林 SC、加藤 SC

1

第2層支え合いのしくみづくり会議報告について

ご意見

- ・緊急情報キットとはどのようなものか、冷蔵庫に入れる意味はあるのか。
→緊急情報キットについて実物を用いて説明。
家庭に基本的であり、場所の見当がつくことから、冷蔵庫に保管することで消防署も統一認識としている。

2

今年度の取り組みについて

(1) 認知症に関する取り組みについて

○取り組み予定

- ・認知症の理解推進
チラシを活用した周知、地域の様々な取り組みにおける周知 等
- ・認知症サポーター養成講座等の開催
地域、学校、企業等
- ・地域における取り組みの相談、支援
予防（居場所づくり、地域活動への参加、元気力アップ等）
見守り活動の推進、認知症に関わる取り組み 等

ご意見

- ・認知症への理解は、子どもから大人へ波及させていくことが大事。
- ・専門職だけでなく、大人が子どもに、高齢者の認知機能について伝える必要がある。
- ・企業でも認知症に対する理解、認識を深めることが大切である。
- ・今後は認知症に取り組んでいる企業に関心が高まってくると思われる。
- ・シルバー人材センターで、生活支援を実施したいというグループがあり、そこで認知

症サポーター養成講座に取り組むことがある。

- ・ 認知症の地域での見守りの考え方は、少しずつ浸透しているように感じる。
- ・ 地域包括支援センター（以下包括）では、認知症であることは恥ずかしいことではないと啓発をしていきたい。
- ・ 地域で話し合う場を作る等、予防を考えていくことが必要だと思う。
- ・ 仕事を通じて役割を持つことで予防につながっている。
- ・ 事業所で、eラーニング等を活用し、認知症を学ぶ環境づくりを進めていきたい。
- ・ 認知症になった場合の、認知症との付き合い方を考えていく。

（２）社会福祉法人等の公益活動について

現状と今後の取り組み

- ・ 令和５年度に社会福祉法人等ネットワーク研修会を実施し、地域課題における社会福祉法人等の公益活動について学ぶ機会となった。
- ・ 新津西部地区や荻川地区など、取り組みが進められている地域もある。
- ・ 令和６年度も幹事会と検討し、研修会の実施や取り組みのコーディネート等を推進していく。

（３）身寄りなしの課題について

ご意見

- ・ 意思決定が難しい場合、あらかじめ示しておくことが大事。
- ・ 課題については地道に広めていく必要がある。

→緊急情報キットや、むすびあい手帳等のツールの活用方法を一緒に検討したい。

- ・ 包括には、救急搬送の付き添いについてなど地域からの相談が入っている。

- ・ 令和６年度は地域の現状を考えていきたい。

- ・ 身寄りなしについて、リーフレット等による広報を進めたい。